

証券コード：9179



"KLINE" KINKAI

# 株主通信 vol.6 2010年 9月



シルバークイーン

川崎近海汽船株式会社

# 株主の皆様へ

株主の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のご高配、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

第45期第2四半期の営業概況ならびに事業内容をご理解いただくために、株主通信をお届けいたします。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新興国向けの輸出が牽引役になり当初は回復傾向にありましたが、個人消費の低迷に加えて企業の設備投資も伸び悩む国内需要により、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

海運業界を取り巻く環境は、為替相場における急激な円高進行、海外景気の下振れ懸念などの不安定要素はありましたが、石炭・鉄鋼石などの原材料輸送をはじめとする海上貨物輸送量は概ね堅調に推移しました。

このような状況下、当社はきめ細かな営業活動と効率的な配船、諸経費の節減に努めた結果、次ページ記載のように、前年同期に比べて増収・増益となりました。

中間（第2四半期末）配当につきましては、1株当たり5円とさせていただきますことになりました。なお、期末配当につきましても1株当たり5円を予定しており、年間配当は1株当たり10円となる予定です。なにとぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

海運業界を取り巻く環境は先行き不透明な状態におかれています。各部門にわたって一層の業績向上を目指す所存です。

株主の皆様におかれましても、引き続き変わりないご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長

荒木 武文

代表取締役社長

森原 明

## CONTENTS

株主の皆様へ	1	トピックス	7
財務ハイライト	2	連結財務諸表	8
部門別営業概況	3	株式の状況	9
船舶紹介	4	会社概要	10
拠点紹介		株主メモ	裏表紙
北九州事務所・日南事務所	5		

## 当第2四半期の業績結果

### → 連結業績

売上高	197億98百万円 (前年同期比 + 10.6%)
営業利益	19億64百万円 (前年同期比 +147.5%)
経常利益	18億39百万円 (前年同期比 +148.4%)
純利益	12億16百万円 (前年同期比 + 83.1%)

### → 連結財政状態

総資産	380億29百万円
純資産	203億63百万円

### → 連結キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フロー	35億71百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6億20百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	△17億33百万円

### → 中間（第2四半期末）配当金

1株当たり5円

## 通期の業績予想

### → 連結業績

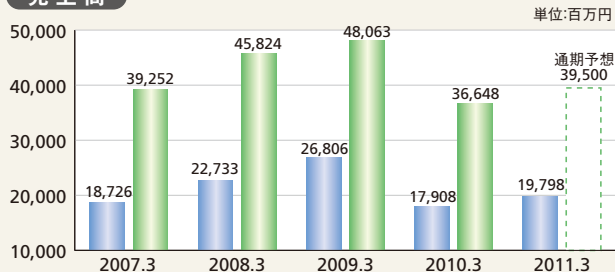
売上高	395億円
営業利益	29億円
経常利益	27億円
当期純利益	17億円

(下期の想定円ドル為替レート 1ドル=85円)

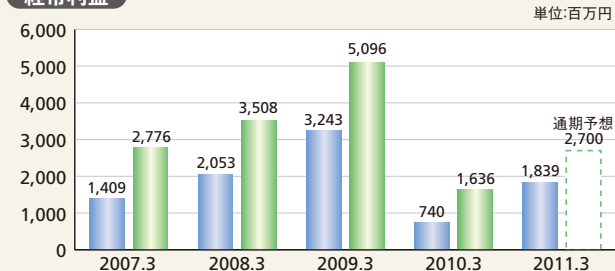
### → 年間配当金

1株当たり10円 (中間 (第2四半期末) 5円・期末5円) を予定

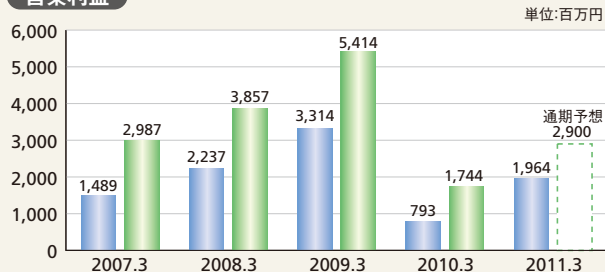
### 売上高



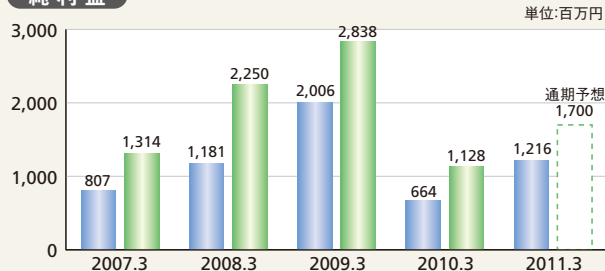
### 経常利益



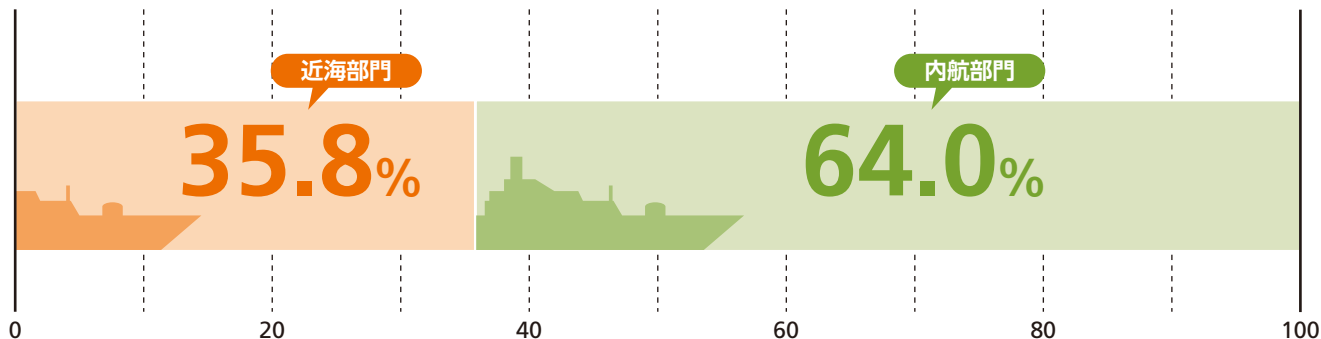
### 営業利益



### 純利益



# 部門別営業概況



## 近海部門

売上高 **70億80**百万円

### 不定期船輸送

不定期船輸送では、海運市況は春先に底打ちし回復傾向となり、石炭等ばら積貨物輸送を中心に安定収益を確保することができました。

### 定期船輸送

定期船輸送では、往航の香港・海峡地及びタイ向け鋼材輸送で自動車用鋼板の需要が伸び、輸送量は大幅に増加しました。一方、復航の合板輸送においては、国内住宅着工率の低下が依然として継続し、輸送量は前年同期に比べて減少しました。

当部門の売上高は70億80百万円となり前年同期に比べて19.3%の増収となりました。また、営業利益は6億69百万円となりました。

## 内航部門

売上高 **126億75**百万円

### 不定期船輸送

不定期船輸送では、石灰石・石炭の各専用船は概ね安定した輸送量を確保しました。小型貨物船も稼働率が上昇し、輸送量は前年同期を上回りました。

### 定期船輸送

定期船輸送では、昨年度に東京―苫小牧航路を休止し常陸那珂港に集約した結果、効率的な配船に努めることができました。北九州航路においても、機械関連の荷動きの回復や猛暑による飲料水需要を受け輸送量は前年同期を上回りました。

### フェリー輸送

フェリー輸送においては、旅客・乗用車は減少しましたが、堅調に推移する宅配貨物や冷凍食品の取り込みを積極的に図った結果、トラック輸送量はわずかながらも前年同期を上回ることができました。

当部門の売上高は126億75百万円となり前年同期に比べて6.2%の増収となりました。また、営業利益は12億65百万円となりました。

## 近海不定期船

11隻

おもに日本、東南アジア、極東アジアにおける南洋材、チップ、石炭などを輸送。石炭輸送においては、ロシア炭、ベトナム炭輸送の有力船社として確固たる地位を築いています。

GLORIOUS FUTURE/SUNROAD YATSUKA/TROPICAL BREEZE 他 写真：TROPICAL VENUS



## 近海定期船

16隻

鋼材、機械、一般雑貨、木材製品などを輸送する日本と東南アジアを結ぶ定期航路。企業の国際物流に対応した海上輸送の一翼を担っています。

ORIENT KING/MARINE STAR/MARINE DIAMOND 他

写真：MARINE EMERALD



## 内航不定期船

10隻

鉄鋼副原料、セメント原料としての石灰石や電力用石炭をはじめ、多様な物資を全国各地に輸送しています。

JP TSUBAKI/千津川丸/美津川丸 他

写真：須寿川丸



## 内航定期船

9隻

生乳をはじめ、紙製品、農水産物、一般雑貨などを輸送する定期航路。スピーディで高品質な海上輸送を提供しています。北関東を中継し、北海道―九州間の一貫輸送も可能となりました。

ほくれん丸/神川丸/げんかい/南王丸 他

写真：王公丸



## フェリー部門

4隻

苫小牧―八戸間を毎日4便運航。本州と北海道を最短ルートで結ぶ重要基幹航路として地域産業の発展に大きく貢献しています。

シルバーキーン/フェリーはちのへ/べが

写真：べにりあ



## 陸から、海へ。九州のメインポート 北九州(小倉)港・油津港・細島港

### ～地球に優しく、物流合理化の 一翼を担う、大型RORO船～

北九州港は、古くはアジア大陸との交流点として、また近代は日本の工業化を支える港としての役割を果たしてきた歴史ある国際貿易港ですが、人々の生活や産業を支える国内物流の拠点港としても大切な役割を担っています。また、油津港、細島港も宮崎県の海の玄関口でもあり、南九州圏における産業・物流の拠点として大きな役割が期待されています。このような物流拠点に当社は、北九州事務所、日南事務所を設置し、北九州・小倉から茨城・日立向けに、油津・細島からは東京向けに定期航路を有し、計3隻の大型RORO船※1による充実した海上輸送サービスを提供しています。

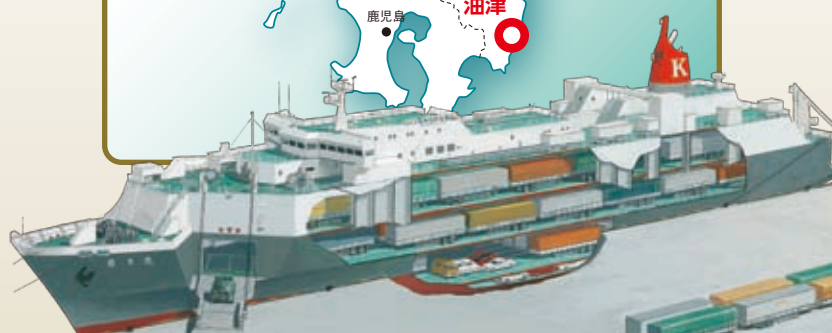
また、茨城港を中継港とした九州-北海道間の一貫貨物輸送も実施しております。

北九州事務所・日南事務所は総勢9名のスタッフで運営され、船舶の運航、集荷の窓口として顧客の皆様へ質の高いサービスの提供を行っており、九州地域における重要拠点となっています。

近年、地球温暖化問題に対する危機感が国際的に広がっております。当社は環境に優しい海上輸送への切り替えである「モーダルシフト」※2に精力的に取り組んでおり、「地球環境に優しい海上輸送モード」を通じて顧客の皆様の物流ニーズに今後も貢献してまいります。

※1 RORO船：Roll On Roll Off船の略。貨物を積んだトレーラー、トラック、乗用車等が船のランプウェイ（出入口）を通じて直接乗下船ができる船のこと。

※2 モーダルシフト：CO<sub>2</sub>排出量削減のため、貨物の輸送手段をトラックから海運や鉄道へ転換すること。



大型RORO船「勇王丸」

イラスト：野上隼夫／「小学館の図鑑 NEO 乗りもの」より

## 九州航路(北九州事務所・日南事務所)の歩み

2006年(平成18年)6月、それまでのコンテナサービスに替わり北九州と日立を週3便結ぶRORO船定期航路開設に伴い、新たな営業拠点として北九州事務所を開設しました。大型RORO船2隻により、北九州-首都圏間で工業製品などの他商品車、雑貨等を輸送し、二つの地域を結ぶ重要な基幹航路として産業と人々の暮らしを支えています。

日南事務所は、1999年(平成11年)11月、大手製紙会社向けの製品輸送の受注に伴い開設されました。翌月には油津-大阪-東京定期航路を開設し、新造大型RORO船“南王丸”にて週2便のサービスを開始しました。同船は紙製品をベースに、工業製品、肥料、商品車を輸送し南九州地域の物流を担い続け、2009年(平成21年)12月に1,000航海を達成しました。

4月 北九州(小倉)-日立定期航路に、効率的な大型RORO船“勇王丸”“新北王丸”の2隻が就航

2007年  
(平成19年)

1月 油津-細島-大阪-東京定期航路を油津-細島-東京定期航路に変更

2006年  
(平成18年)

8月 油津-大阪-東京航路に細島港寄港

6月 北九州事務所開設

北九州(小倉)-日立定期航路開設、週3便による大型RORO船“ばんかい”“ひたち”の2隻が就航

1999年  
(平成11年)

12月 油津-大阪-東京定期航路開設、週2便による新造大型RORO船“南王丸”就航

11月 日南事務所開設

## 【運航船舶紹介】

就航航路	船名	総トン数	速力(ノット)	竣工年	積載車両数
北九州-日立	勇王丸	9,438	20.7	2001年	12mトレーラ105台、商品車61台
	新北王丸	5,901	20.5	1999年	12mトレーラ80台
南九州-東京	南王丸	9,832	20.5	1999年	12mトレーラ126台、商品車103台



## 北九州事務所

〒803-0801  
福岡県北九州市小倉  
北区西港町118  
TEL 093 (562) 0655  
FAX 093 (562) 0661



## 日南事務所

〒887-0015  
宮崎県日南市大字平野  
宇川津留1120-14  
TEL 0987 (21) 1701  
FAX 0987 (21) 1715

# トピックス

TOPICS

1

## 新造船紹介

### MAGNOLIA ACE

本船は、2010年（平成22年）11月、愛媛県今治市にあるあいえず造船株式会社にて竣工いたしました。

当社運航船のなかで最大船型となる本船は、国外不定期航路に従事し、東南アジア区域のみならず北米、豪州などから日本向けに石炭、穀物等の輸送も視野に入れています。

また、船名の由来である【MAGNOLIA / マグノリア】の日本名は『木蓮』、中国の上海市の市花に因み、近年成長著しい中国の活気にあやかって名付けられました。

当社の外航部門においては、10,000DWT（積載重量トン）前後のいわゆる「近海船」から28,000DWTにいたるまで東南アジア地域に適したバリエーションのある船舶でお客様の多種多様なニーズにお応えする船隊整備に努めておりますが、本船は更に幅広いニーズにも応えられ、業容拡大に寄与するものと考えております。

今後も産業と人々の暮らしを支えるベストパートナーとして、安全運航を最優先にお客様と社会に貢献してまいります。

#### 船舶概要

総トン数	17,019t
全長	169.4m
最大速力	16.2ノット
積載重量トン	28,389t



TOPICS

2

## 個人投資家向け会社説明会(東京)を開催

9月9日（木）日本証券アナリスト協会第1セミナールーム、9月14日（火）TKP大阪淀屋橋カンファレンスセンターにて個人投資家向け会社説明会を開催し、多くの個人投資家の皆様にご参加いただきました。

代表取締役社長 森原 明による当社の概要、事業内容、業績、配当等の説明後には参加者の皆様から多くの質問が寄せられ、ご回答いただいたアンケートでも貴重なご意見を頂戴しました。当社は今後も継続的なIR活動を行う予定です。





## →第2四半期連結貸借対照表 (要約)

(単位：千円)

資産の部	当第2四半期末 2010年9月30日現在	前期末 2010年3月31日現在
<b>流動資産</b>	<b>12,181,795</b>	<b>11,173,289</b>
<b>固定資産</b>	<b>25,847,906</b>	<b>26,610,931</b>
有形固定資産	24,758,421	25,394,790
無形固定資産	150,258	165,401
その他	939,226	1,050,740
<b>資産合計</b>	<b>38,029,701</b>	<b>37,784,220</b>

負債の部	当第2四半期末 2010年9月30日現在	前期末 2010年3月31日現在
<b>流動負債</b>	<b>8,226,865</b>	<b>7,575,873</b>
<b>固定負債</b>	<b>9,439,287</b>	<b>10,888,079</b>
<b>負債合計</b>	<b>17,666,153</b>	<b>18,463,952</b>

純資産の部	当第2四半期末 2010年9月30日現在	前期末 2010年3月31日現在
<b>株主資本</b>	<b>20,984,305</b>	<b>19,885,828</b>
資本金	2,368,650	2,368,650
資本剰余金	1,248,849	1,248,849
利益剰余金	17,394,228	16,295,278
自己株式	△27,422	△26,948
<b>評価・換算差額等</b>	<b>△620,756</b>	<b>△565,560</b>
その他有価証券評価差額金	63,233	123,360
繰延ヘッジ損益	△9,526	△16,614
土地再評価差額金	△666,287	△666,287
為替換算調整勘定	△8,177	△6,019
<b>純資産合計</b>	<b>20,363,548</b>	<b>19,320,267</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>38,029,701</b>	<b>37,784,220</b>

## →第2四半期連結損益計算書 (要約)

(単位：千円)

	当第2四半期 累計期間 自 2010年4月 1日 至 2010年9月30日	前第2四半期 累計期間 自 2009年4月 1日 至 2009年9月30日
<b>売上高</b>	<b>19,798,228</b>	<b>17,908,515</b>
<b>売上原価</b>	<b>16,051,740</b>	<b>15,350,168</b>
売上総利益	3,746,487	2,558,347
販売費及び一般管理費	1,781,797	1,764,498
<b>営業利益</b>	<b>1,964,690</b>	<b>793,848</b>
営業外収益	44,094	72,024
営業外費用	169,056	125,362
<b>経常利益</b>	<b>1,839,728</b>	<b>740,510</b>
特別利益	186,462	373,323
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>2,026,190</b>	<b>1,113,834</b>
法人税等	823,811	478,478
法人税等調整額	△14,016	△29,003
<b>四半期純利益</b>	<b>1,216,395</b>	<b>664,359</b>

## →第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)

(単位：千円)

	当第2四半期 累計期間 自 2010年4月 1日 至 2010年9月30日	前第2四半期 累計期間 自 2009年4月 1日 至 2009年9月30日
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,571,937</b>	<b>1,539,218</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△620,600</b>	<b>361,560</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,733,026</b>	<b>△1,642,531</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△60,109	△18,145
<b>現金及び現金同等物の増減額</b>	<b>1,158,200</b>	<b>240,101</b>
現金及び現金同等物の期首残高	4,992,697	4,901,538
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,150,898	5,141,640

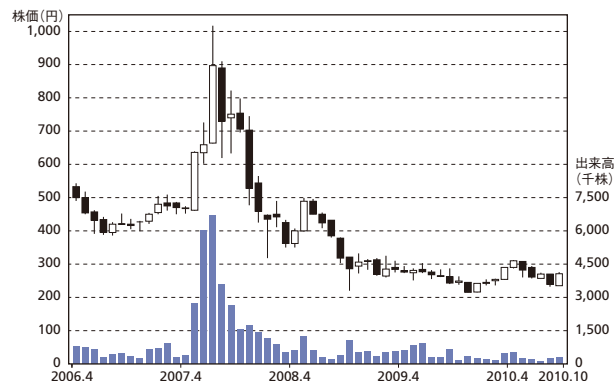
記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

# 株式の状況 (2010年9月30日現在)

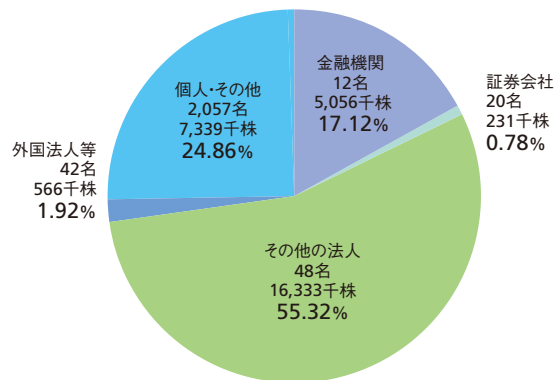
- 会社が発行する株式の総数 97,300,000 株
- 発行済株式の総数 29,525,000 株
- 株 主 数 2,179 名 (前年期末比 13 名減)
- 大 株 主

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	議決権比率 (%)
川崎汽船株式会社	14,040	47.83%
東京海上日動火災保険株式会社	1,840	6.27%
株式会社損害保険ジャパン	1,080	3.68%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	868	2.96%
三井住友海上火災保険株式会社	855	2.91%
川崎近海汽船従業員持株会	426	1.45%
北海運輸株式会社	350	1.19%
株式会社栗林商会	304	1.04%
株式会社ダイトーコーポレーション	278	0.95%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	155	0.53%

## → 株価及び株式売買高の推移



## → 株式の所有者別状況



## 表紙の船

The Ship on the Cover

## “シルバークィーン”

本船は、1998年（平成10年）3月、三菱重工業株式会社下関造船所にて建造された3代目です。フラッグシップというべく他3隻のフェリーと比較し馬力、速力、積載能力に優れ、八戸港―苫小牧港間を7時間で結びます。同航路は、本州と北海道を結ぶ重要な基幹航路として、旅客の他、宅配貨物、工業製品、農水産物を輸送し産業と人々の暮らしを支えています。

本船の特色としては、24時間利用可能なオートレストラン、展望風呂、トラック運転手のための個室を備え、快適な海の旅をお届けしています。

- 総トン数 7,005t
- 全長 134m
- 航海速力 23.2ノット
- 車積積載能力

- トラック90台、乗用車20台
- 旅客定員 600名
- ドライバーズルーム 80名



# 会社概要 (2010年9月30日現在)

K LINE KINKAI

社名	川崎近海汽船株式会社 KAWASAKI KINKAI KISEN KAISHA, LTD.	役員	代表取締役会長 荒木 武文 代表取締役社長 森原 明 取締役副社長 田村 周三 専務取締役 石井 繁礼 常務取締役 谷本 賢三 常務取締役 木村 孝史 取締役 小柳 政幸 取締役 丸山 義貴 取締役 上杉 芳人 取締役 赤沼 宏 取締役 山田 敏雄 取締役 高田 雅彦 監査役 岸野 憲 監査役 新 勝好 監査役 (非常勤) 堤 則夫 監査役 (非常勤) 生和 勉
設立	1966年(昭和41年)5月1日		
本社	東京都千代田区霞が関一丁目4番2号		
資本金	23億6,865万円		
代表者	代表取締役社長 森原 明		
従業員数	394名		
主な事業内容	海上運送事業 海運仲立業 港湾運送事業および倉庫業 貨物運送取扱事業 海運代理店業		

## 運航船舶

※他社との共有船

	船名	船種	総トン数	重量トン数(k/t)	主要馬力	航海速度	建造年月	就航状況
社船・共有船	ほくれん丸	RORO	13,950	6,597	D-24,256	23.5	2006年6月	内航定期船
	第二ほくれん丸	RORO	13,950	6,597	D-24,256	23.5	2006年7月	内航定期船
	神川丸	RORO	13,018	6,387	D-21,618	22.0	2002年9月	内航定期船
	ほっかいどう丸	RORO	12,526	5,937	D-32,400×2	20.0	1999年9月	内航定期船
	勇王丸*	RORO	9,348	5,335	D-17,185	20.7	2001年6月	内航定期船
	げんかい	RORO	7,097	5,445	D-26,400	22.0	1997年6月	内航定期船
	シルバークイーン	フェリー	7,005	3,455	D-12,000×2	20.7	1998年3月	フェリー
	フェリーはちのへ	フェリー	5,603	3,352	D - 5,740×2	18.2	1989年7月	フェリー
	美津川丸	石灰石専用	3,497	5,800	D - 3,350	12.5	2007年10月	内航不定期船
	JP TSUBAKI*	石炭専用	7,287	6,600	D - 4,420	12.0	2008年11月	内航不定期船
	JP COSMOS*	石炭専用	7,287	6,600	D - 4,420	12.0	2008年2月	内航不定期船
	須寿川丸	ブッシャーバージ	94	3,918	D - 2,400	9.8	1992年7月	内航不定期船
社船・共有船計		12隻	100,662	66,023				
定期備船		38隻	290,355	391,938				
運航船舶合計		50隻	391,017	457,961				

# 川崎近海汽船株式會社

東京都千代田区霞が関一丁目4番2号 (〒100-0013)

TEL:03-3592-5800 FAX:03-3592-5911

## 当社IRサイトをご活用ください。

当社ホームページでは、プレスリリースや決算情報等を掲載しております。ぜひご活用ください。

<http://www.kawakin.co.jp/ir/index.html>

## 株主メモ

- |                               |                                                                                                                                                   |
|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ■事業年度                         | 毎年4月1日から翌年3月31日まで                                                                                                                                 |
| ■定時株主総会                       | 6月                                                                                                                                                |
| ■同上総会権利行使株主確定日                | 3月31日                                                                                                                                             |
| ■配当金受領株主確定日                   | 3月31日                                                                                                                                             |
| ■中間(第2四半期末)配当受領株主確定日          | 9月30日                                                                                                                                             |
| ■基準日                          | 上記確定日のほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。                                                                                                                   |
| ■株主名簿管理人                      | 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社                                                                                                                       |
| ■郵送物送付先<br>(電話照会先)            | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号<br>中央三井信託銀行株式会社 証券代行部<br>電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)<br>取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに<br>日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。     |
| ■公告方法                         | 電子公告により行います。公告掲載URL ( <a href="http://www.kawakin.co.jp/">http://www.kawakin.co.jp/</a> )<br>ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、<br>日本経済新聞に掲載いたします。 |
| ■住所変更、単元未満株式の<br>買取等のお申出先について | 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。<br>なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、<br>特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。                                                |
| ■未払配当金の支払について                 | 株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。                                                                                                                   |



古紙配合率70%再生紙を使用しています